さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第34号（R5. 10. 27）

バレーボール部、宗像区大会第３位で筑前地区大会に進出！
テニス部、筑前地区大会個人戦で石井・松本ペアベスト16！

10 月 21 日（土）中央中体育館で開催された宗像区新人バレーボール大会で、本校バレーボール部は第３位に入賞しました。そのため、11 月 18 日（土）に中央中か津屋崎中で開催される筑前地区新人バレーボール大会への進出が決まりました。

また、同日、筑前地区新人ソフトテニス大会個人戦も開かれ、本校の石井莉乃・松本ゆづきペアがベスト16に入り、県大会に出場することが決まりました。

かとう学園三校小中学校合同授業研修会を本校で行いました

10 月 25 日（水）、河東小学校・河東西小学校・河東中学校の先生たち約120名が本校に集まり合同授業研修会を行いました。「主体的に学ぶ子どもを育て、対話活動と振り返りの充実を図る」という共通の授業目標をもとに授業参観と研究協議会を行いました。今回、モデル授業として公開授業をしてくれたのは、次の5人の先生と5つのクラスです。

A　岩佐 契子先生　７年２組　美術科　「文字で楽しく伝える」
B　片岡 勝信先生　８年4･5 組男子　保健体育科　「球技 バレーボール」
C　髙橋 さなえ先生　８年4･5 組女子　保健体育科　「傷害の防止」
D　長尾 涼先生　９年１組　英語科　「A Legacy for Peace」
E　廣渡 栄子先生　あおば学級　自立活動　「学校生活トラブル解決!あなたならどうする?」

どの授業もどのクラスも協議会では先生方の授業力と生徒の学習姿勢・意欲を絶賛されていました。

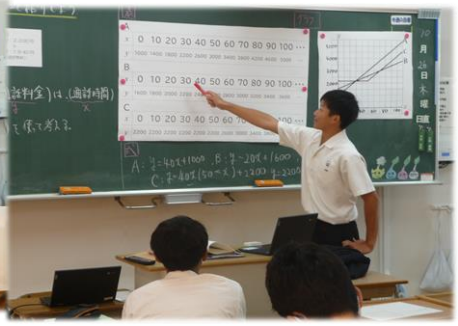
授業研修の風景

今週は、学園での研究授業を5本公開した上に、2本の若手教員による公開授業も行われました。また、本日、藤田先生は県の数学研究会の代表授業を行いました。

宮城先生（数学）

10月26日（木）8年2組で行われた宮城先生による数学科の公開授業。一次関数の考え方をもとに、表やグラフ・式を使って問題を解決していく授業でした。

今、国や県は「使える学力」「実社会で役に立つ知識技能」の育成を求めています。これをふまえた宮城先生の実生活上の問題が提示されました。携帯電話の料金プランを時間と料金の一次関数として考えていく問題です。8-2 の生徒たちは3つの料金パターンを表にしたりグラフにしたりして、使用時間によってどのプランが安くなるのかを求め説明していました。



“ 幸福の４つの条件 ” って何でしょうか？

～ 日本でいちばん大切にしたい会社「日本理科学工業」～

『**日本でいちばん大切にしたい会社**』という本がある。全部で７冊あるから国内の企業百社くらいが紹介されている。そのトップに挙げられているのが「**日本理科学工業**」という会社なので、作者はおそらくこの会社が本当の一番だと思っているだろう。

さて、この会社は神奈川県川崎市にある会社で、全社員の７割が障がいをもっている。この本が発刊された 2008 年も今も変わらない。2008 年当時は社員数 50 名と紹介されていたが、現在は 88 名の社員で 63 名の障がい者が働いている。学校で使うチョークを生産する会社である。

今から 64 年前、特別支援学校の先生が大山社長を訪ねてきた。知的障がいを持った ２ 人の女子生徒を雇ってほしいためである。しかし、大山社長は断った。先生は、その後何度も会社に足を運んだが断られた。そして、一週間だけ職場体験をさせてもらうことになった。

会社は朝８時から夕方５時まで。その子たちは雨の降る日も風の強い日も毎日7時に会社の玄関に来ていた。お父さん、お母さん、さらには先生も心配して一緒に送ってきた。

職場体験が終わる前日、十数名の社員全員が大山社長にこう訴えた。

「あの子たち、明日で職場体験が終わってしまいます。どうか社長、来年の4月から、あの子たちを正規の社員として採用してあげてください。もし、あの子たちにできないことがあるなら、私たちがみんなでカバーします。」

社員みんなの心を動かすほど、その子たちは朝から終業時間まで一生懸命に働いていた。仕事は簡単なラベルはりだったが、10時の休み時間、お昼休み、3時の休み時間にも、仕事に没頭して、手を休めようとはしなかった。背中をたたいて「もう、お昼休みだよ」「もう今日は終わりだよ」と言われるまで一心不乱だった。本当に幸せそうな顔をして一生懸命に仕事をしていた。

大山社長は、一つだけわからないことがあった。どう考えても、会社で毎日働くよりも施設でゆっくりのんびり暮らした方が幸せなのではないかと思えた。そんな時、禅寺の坊さんにたずねてみた。すると坊さんはこう答えた。

「そんなことは当たり前でしょう。**幸福とは、①人に愛されること、②人にほめられること、③人の役に立つこと、④人に必要とされること**です。そのうちの②③④は、施設では得られないでしょう。この3つの幸福は、働くことによって得られるのです。だから、どんな障がい者の方でも、働きたいという気持ちがあるんですよ。施設の中でのんびり楽しく、自宅でのんびり楽しくテレビだけ見るのが幸せではないんです。真の幸せは働くことなんです。」

大山社長は、２ 人を正式採用にすることにした。

大山社長は、その子たちが仕事をしやすいように機械や道具などを工夫していった。例えば、チョークはいろいろな色がある。ラインに流す材料も容器の色で表した。機械を何分動かすか、ということも稼働時間をはかって砂時計をつくり、一目でわかるようにした。

能力に合わせて作業を考え、その人に向いている仕事を任せれば、その人の能力を最大限に発揮させることができ、決して健常者に負けない仕事ができる。そうやって創意工夫を繰り返していきながら障がいのある人を採用し続け 60 年にもなった。

現在、日本理科学工業は、ホタテ貝殻を使用したからだにやさしいダストレスチョークやガラスにもかけるクレヨン・キットパスなどを開発し販売している。